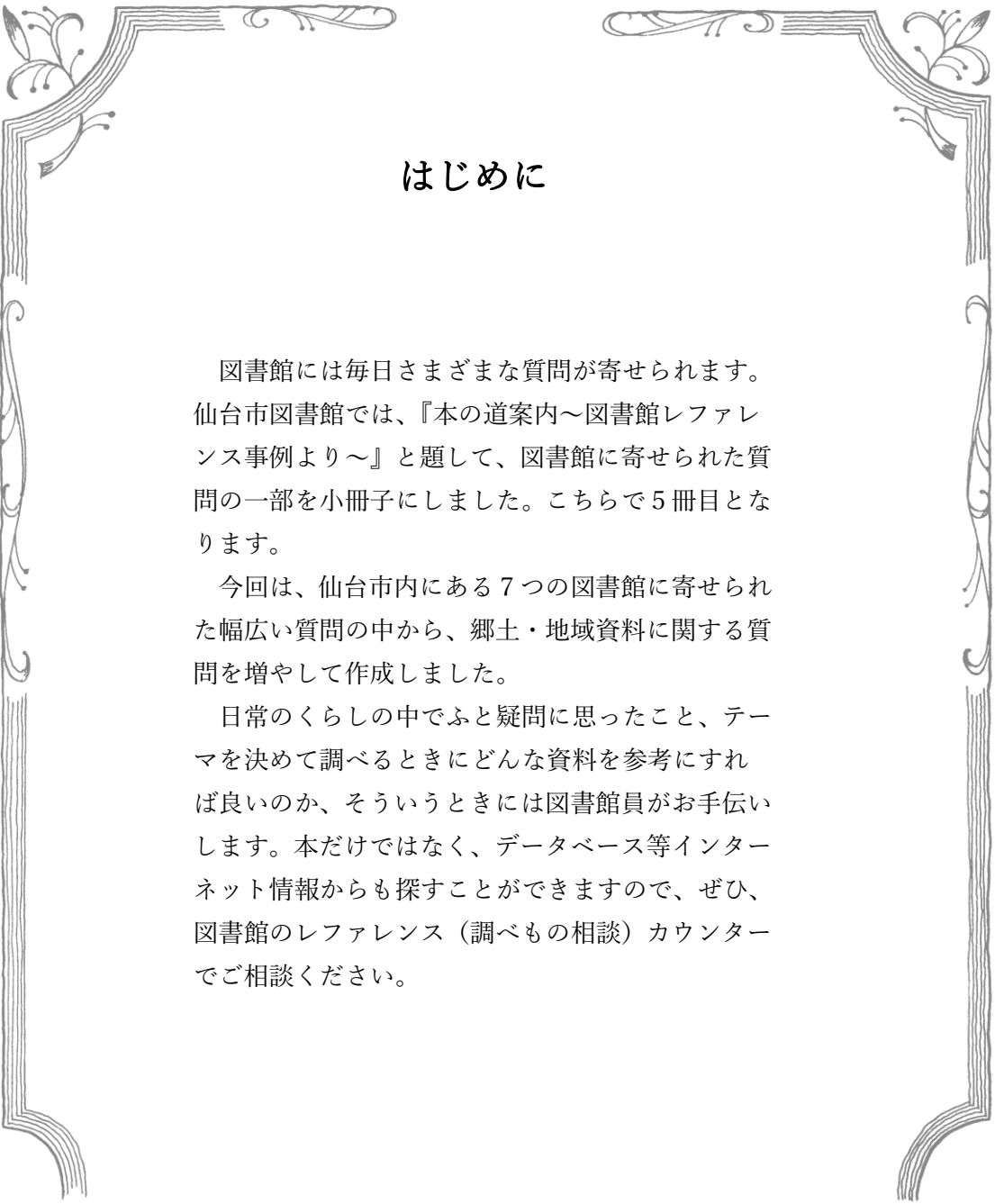


仙台市図書館 2018 vol.5

本の道案内

図書館レファレンス事例より

A decorative border with floral and scrollwork motifs surrounds the text. The border is composed of multiple parallel lines forming a frame, with intricate floral designs at the corners and along the sides.

はじめに

図書館には毎日さまざまな質問が寄せられます。仙台市図書館では、『本の道案内～図書館レファレンス事例より～』と題して、図書館に寄せられた質問の一部を小冊子にしました。こちらで5冊目となります。

今回は、仙台市内にある7つの図書館に寄せられた幅広い質問の中から、郷土・地域資料に関する質問を増やして作成しました。

日常の暮らしの中でふと疑問に思ったこと、テーマを決めて調べるときにどんな資料を参考にすれば良いのか、そういうときには図書館員がお手伝いします。本だけではなく、データベース等インターネット情報からも探すことができますので、ぜひ、図書館のレファレンス（調べもの相談）カウンターでご相談ください。

目 次

ソメイヨシノ（桜）の開花について.....	1
「赤い羽根共同募金」で使用している「赤い羽根」は本物の鳥の羽根か？	2
「付箋」はどのようにくっついたり取れたりするの？	3
中世のロンドンで行われていた「熊いじめ」に使われていた犬は？	4
ホップについて詳しく知りたい	5
青菜（せいさい）の漬け物の作り方は？	6
歌舞伎の外郎売（ういろうり）について.....	7
君が代のもととなった歌は？	8
京都のまつりで神輿（みこし）の上に乗っていたカマキリについて	9
以前、子どもに読み聞かせをした絵本を探してほしい	10

郷土に関する質問

八木山にベーブ・ルースが来た時の事が知りたい	11
八木山・向山付近の垂炭坑道について	12
戦時中の父親の行動を知る手がかりとして配属先の部隊を調べたい	13
仙台北城下創設期の地名と「千代」から「仙台」に変わった理由は？	14
仙台市青葉区錦町にある「ライト式近代建築」の建物について	15
登米市出身の「おいじん」がモデルとなっている本は？	16
孫と一緒に、太平洋戦争中の仙台の様子について学びたい	17
仙台市で高齢者の外出手段を調査した本は？	18
「熊野堂の昔話」の名取の老女が読みたい	20
明治天皇の仙台巡幸時のルートは？	21
渡辺綱（わたなべのつな）の宮城県に関する昔話が読みたい	22
広瀬川や七北田川の始まりから海に至るまでを子どもに説明したい	23
仙台市政 88 周年の記念に選ばれた樹木 88 本を知りたい	24

過去の事例集目次

ソメイヨシノ（桜）が立春からの気温を足していくと 540 度で開花するという話を何かで読んだ。それが載っている資料を探している。

答

『こんなに役立つ数学入門』 p130 に、「ソメイヨシノの場合、立春からの最高気温の積算が 540 度くらいになると開花することが知られているので、これに基づいて桜の開花予測を行っているのです」という記載があった。

また、兵庫県立人と自然の博物館のホームページで公開されている『ひとくフィールドワーク入門』に掲載されている「都市環境とサクラ」の中にも同様の記述が見られた。

回答プロセス

レファレンス協同データベースで「桜 開花」で検索すると、類似の質問が出てくるので、そこに記載されている参考文献を中心に確認したところ、様々な開花予測の方法が載っているものの、立春からの気温を足していくと 540 度で開花するという記述は見つけられなかった。そこで、インターネットで「桜 540 度」で検索したところ、兵庫県立人と自然の博物館のホームページで公開されている「都市環境とサクラ」が見つかり、内容を確認すると同様の記述が確認できた。しかし、資料は見つけられなかったため、検索ワードを「立春 積算 540 度」に変更してみると、国際基督教大学教養学部鈴木寛教授のホームページの「2015 年読書記録」の中で、『こんなに役立つ数学入門—高校数学で解く社会問題』の内容が紹介されており、同様の記述があることがわかった。現物を確認し、利用者に提供した。

また、ソメイヨシノ（桜）の開花の仕組みそのものに関しては、『どうしてわかるの？サクラが咲く日』や『微分・積分を楽しむ本』等にも詳しい記載があった。

参考資料

- 『こんなに役立つ数学入門』 広田照幸・川西琢也／編 筑摩書房 2007 年
『どうしてわかるの？サクラが咲く日』 七尾純／著 アリス館 2002 年
『「微分・積分」を楽しむ本』 今野紀雄／監修 PHP 研究所 2002 年

参考サイト

兵庫県立人と自然の博物館 ホームページ (2018 年 2 月 14 日アクセス)

<http://www.hitohaku.jp/publication/book/fieldwork.html>

鈴木寛国際基督教大学教養学部教授 ホームページ (2018 年 2 月 14 日アクセス)

<https://icu-hsuzuki.github.io/science/books/books2015.html>

「赤い羽根共同募金」で使用されている「赤い羽根」は本物の鳥の羽根を使用しているのか、偽物なら何で代用しているのかを知りたい。

答

「赤い羽根共同募金」とは、都道府県単位に組織された共同募金会が取り組む募金活動である。毎年10月1日から12月31日まで行われる。社会福祉法に定める共同募金であり、寄せられたお金は、その都道府県の地域福祉の推進の為に活動している民間の団体などに配分されている。

「赤い羽根共同募金」で使用されている「赤い羽根」は、ニワトリの羽根を赤く染めたものである。アメリカで水鳥の羽根を赤く染めて使っていたことがその由来となっている。

回答プロセス

蔵書検索システムより、「共同募金」をキーワードに検索。中央共同募金会発行の『みんな一緒に生きていく 共同募金運動50年史』p188 - p189に、材料や製作過程の詳細な記述があったが、発行年が1997年と古かったため、福祉に関連する資料に直接あたり、現在でも同様にニワトリの羽根が使われているのかを確認した。また、ジャパンナレッジで「赤い羽根」をキーワードに検索したところ、羽根の素材について記載のある記事が1件見つかった。

参考資料

『みんな一緒に生きていく 共同募金運動50年史』 中央共同募金会 1997年

『NEW ボランティア用語事典 体験学習に役立つ!』

長崎純心大学ボランティア研究会／編著 学習研究社 2005年

『60の用語でわかる!福祉なるほど解説』下巻(生活と福祉・福祉の国際化・福祉にかかわる仕事) 高橋利一／監修・著 フレーベル館 2010年

■オンラインデータベース

「ジャパンナレッジ」(総合辞典・事典データベース)

「付箋」はどうしてくっついたり取れたりするのか知りたい。 (小学生からの質問)

答

付箋ののりには、小さなべとべとするアクリルの球が何十億個も入っている。球の間の隙間があるために、強くくっつき過ぎることがない。貼り付けるときには、のりの球のうち、幾つかだけがつぶれてのりが広がる仕組みなので、何度も繰り返し使うことができる。また、メモ用紙の裏にコーティング剤がついていて、のりがメモ用紙から貼ったものに移らないようになっている。

『発明大図鑑 ひらめきが世界を変えた!』 p135

『発明図鑑 世界をかえた 100 のひらめき!』 p91

回答プロセス

レファレンス協同データベースに「ポスト・イットの誕生について知りたい」という事例があり、住友スリーエムのサイトと参考資料が紹介されていた。そのサイトと参考資料を当たってみたが、内容が小学生向けではなく、原理についての記載もなかった。

児童書コーナーにある発明の本を探したところ、「のり」の部分の拡大写真もあり、発明から原理まで分かりやすい上記説明が載っている資料が見つかった。

参考資料

『発明大図鑑 ひらめきが世界を変えた!』

ジュリー・フェリス／ほか著 岩崎書店 2011年

『発明図鑑 世界をかえた 100 のひらめき!』

トレーシー・ターナー／文 主婦の友社 2015年



中世のロンドンで行われていた見せ物「熊いじめ」にはどんな犬が使われていたのか？

答

「熊いじめ」とは、闘鶏と並ぶ、中世以来人気のイギリスの残酷な見せ物のこと。

熊を鉄の鎖につなぐ。鎖の長さは1~2メートル程度なので、熊の行動範囲はかなり限定され、おまけにあらかじめ目をつぶされていた。この熊に立ち向かうのは数匹の犬で、どの犬がもっとも勇敢に戦うかで賭博が成立していた。

また、これに使われる犬種はマスチフやブルテリアが一般的だった。

・マスチフ（マスティフ、mastiff）

古くから番犬、獣猟犬、護身犬として飼われ、古代ローマ帝国時代は闘犬としてライオン、クマ、ウシなどと戦わされた。マスチフが3頭いればクマを倒し、4頭いればライオンに勝つとさえいわれたほどの闘争力をもつ。日本では土佐闘犬を作り出すのに用いられた。

・ブルテリア（bull terrier）

イギリスで作出された闘犬の一種。18世紀中ごろイギリスで犬と牡牛を戦わせるブルベインティングが盛んに行われており、それに用いる闘争性の高い犬が作り出されていた。犬界の拳闘士とか白い騎士と称される勇敢で活動的な犬種。

オンラインデータベース：「ジャパナレッジ」より

回答プロセス

まず「熊いじめ」とは何かを知るために、オンラインデータベースで意味を調べた。さらに、中世のロンドンのことなので、イギリス史のコーナーを探した。

参考資料

『諷刺画で読む十八世紀イギリス』 小林章夫／著 朝日新聞出版 2011年

『ロンドン歴史図鑑』 キャシー・ロス／著 原書房 2015年

『賭けとイギリス人』 小林章夫／著 筑摩書房 1995年

『それでもイギリス人は犬が好き 女王陛下からならず者まで』 飯田操／著

ミネルヴァ書房 2011年

■オンラインデータベース

「ジャパナレッジ」（総合辞典・事典データベース）」

ホップの写真が見たい。できれば栽培の様子やその葉、つるの写真などもあれば見たい。空き地に生育していたホップの実を取って見たが、本当にホップなのか知りたい。人が手を入れなくてもそのような場所に育つのだろうか。

答

ホップの写真は、オンラインデータベースの「ルーラル電子図書館」、『日本大百科全書』で確認ができた。自宅栽培の様子やつるなどは『手づくりビール読本』、『ハーブ図鑑 110』にも載っていた。

ホップは和名「セイヨウカラハナソウ」と言い、アサ科（以前はクワ科に含まれていた）の多年生つるの草植物である。雌雄異株で、雌株の毬果（きゅうか）は淡緑色をしており、松かさ に似ている。「実」と言われたところは雌株の毬果だと思われる。熟した雌株の毬果は初秋に摘み取るのが一般的のようだ。

空き地に育っていた植物に関しては、『北の果実酒・薬草酒』の p40 - p41 に「栽培種ホップ、野生種はカラハナソウ」との記述があり、また『日本大百科全書 5』の「カラハナソウ」項目 p852 「～雌花序は毬果状で短い柄で下垂し淡緑黄色。～山地に生え、中部地方以北の本州、北海道および中国北部に分布する。～母種のホップ hop はヨーロッパ原産で、黄色の腺点が著しく多く、ビールの苦味料として栽培される」や、同書『21』の「ホップ」項目 p581 「包鱗（ほうりん）ごとに小さい二個の瘦果（そうか）が秋に結実するが、栽培上は雌株のみを植えるので、結実することはない。」とあった。人が手を入れて育てている植物とは別種として位置づけられているようだ。

回答プロセス

「ホップ」がどういった植物なのかを知るため、『原色牧野植物大図鑑 離弁花・単子葉植物編』で基本情報を調べた際、「セイヨウカラハナソウ」というキーワードから「カラハナソウ」に関する情報も確認した。また、「ビール」や「酒」、「ヨーロッパ」に関するキーワードも出てきたため、蔵書検索システムやデータベースで関連資料を調べて上記回答とした。

参考資料

- 『原色牧野植物大図鑑 離弁花・単子葉植物編』 牧野富太郎／著 北隆館 1997年
- 『日本大百科全書 5、21』 小学館 1994年
- 『北の果実酒・薬草酒』 池田郁郎／著 北海道新聞社 1998年
- 『手づくりビール読本』 笠倉暁夫／著 農山漁村文化協会 2015年
- 『ハーブ図鑑 110』 レスリー・ブレンネス／著 日本ヴォーグ社 1992年
- 『図説世界史を変えた50の植物』 ビル・ローズ／著 原書房 2012年
- 『うまい酒を科学する事典』 酒文化研究所／監修 ナツメ社 2010年

■オンラインデータベース

「ルーラル電子図書館」（農業関連データベース）

青菜（せいさい）の漬け物の作り方が知りたい。

答

「青菜（せいさい）」とは、ヤマガタセイサイという高菜の一種で、山形県の特産野菜である。別名「蔵王菜」とも呼ばれる。アブラナ科に属し、ルーツは中央アジア原産の芥子菜（からしな）で、肉厚な葉が特徴的である。明治 41 年に山形県が奈良県から高菜の種子を取り寄せ、以降漬け物用に改良を進めたものが栽培されている。

「青菜（あおな）」とは新鮮な蔬菜（そさい）、緑色の菜の総称のことである。ハウレンソウ、コマツナ、アブラナなどが含まれる。また、カブの古名でもある。

“あおな”に“せいさい”も含まれるが、“せいさい”のみの漬け物の作り方について記載のある本を確認するとともに、青菜漬の調理方法についての記載があった本も参考資料とした。

回答プロセス

「青菜（せいさい）」「漬け物」をキーワードに蔵書検索システムで検索したが、該当資料は見つけれなかった。“せいさい”がどんな植物なのか、オンラインデータベース「ジャパンナレッジ」で確認したところ、山形特産の野菜であることが分かった。郷土資料の料理や漬け物等に関する本の中にあつた「山形」「おみ漬け」「高菜」のキーワードを追加し、改めて蔵書検索システムで検索し資料に当たったところ、複数冊の当該記載があつたため上記回答とした。

参考資料

『山形県大百科事典』 山形放送 1993 年

『日本の食生活全集 6 聞き書 山形の食事』 農山漁村文化協会 1988 年

『ごっつおうさん 2』 みやぎの食を伝える会／編著 河北新報出版センター 2013 年

『おいしい漬け物 138 品基本の便利帳』 杵島直美／著 青春出版社 2005 年

『味のふるさと 22 山形の味』 角川書店 1978 年

『日出山みなみの新野菜料理……山形』 日出山みなみ／著 料理新聞社 2003 年

『ふるさとおもしろ食べもの百科 第 1 巻 まるごとわかる 北海道・東北・北関東』
向笠千恵子／監修 日本図書センター 2010 年

『東北漬け物紀行』 林みかん／著 無明舎出版 2004 年

■オンラインデータベース

「ジャパンナレッジ」（総合辞典・事典データベース）

歌舞伎の外郎売（ういろうり）について知りたい。

答

『歌舞伎ハンドブック』p117によると、外郎とは中国の元の礼部員外郎（れいぶいんがいろう）のことで、日本に帰化した陳宗敬（ちんそうけい）が伝えた薬の名称。痰きり、口臭をのぞく丸薬 透頂香（とうちんこう）として小田原で売り出され、江戸時代の名物になっていた。

外郎の噂を聞いた二代目市川團十郎が服用したところ持病の咳が止まったため、感謝の意を込めて、1718年に歌舞伎の演目「若緑勢曾我（わかみどりいきおいそが）」の中で、外郎売の姿で登場したのが始まりとされている。この外郎売は、売り歩くときの宣伝口上を流ちょうに勢いよく述べ立てて大好評を博し、歌舞伎十八番の演目の一つとなった。

『歌舞伎にすと入門』p70によると、歌舞伎十八番とは初代團十郎以来演じられてきた十八の演目を、幕末の七代目團十郎が家の芸として定めたものとある。その際の演目は「外郎」であったが、現代は「外郎売」として知られる。1980年に十二代目團十郎が初演に近い形で再復活、家の芸として節目節目に大切に演じられている。

現在では、アナウンサーなどが、滑舌の練習のために外郎売の口上を使っているそうである。

回答プロセス

『歌舞伎ハンドブック』に、外郎売についての記述がみられた。そこで、蔵書検索システムで「外郎売」で調べると、「外郎売」の口上が絵本になった『外郎売 声にだすことばえほん』が見つかった。また、7類の書棚で、歌舞伎十八番や曾我物について記載されている資料を集め、外郎売につながる記述を集めた。

参考資料

- 『歌舞伎 ハンドブック 第3版』 藤田洋／編 三省堂 2006年
- 『外郎売 声にだすことばえほん』 長野ヒデ子／絵、齋藤孝／編 ほるぷ出版 2009年
- 『歌舞伎事典』 服部幸雄・富田鉄之助・廣末保／編 平凡社 2000年
- 『歌舞伎にすと入門』 辻和子／著 東京新聞出版部 2009年
- 『歌舞伎十八番』 十二代目市川團十郎／著 河出書房新社 2002年
- 『歌舞伎にみる日本史』 佐藤孔亮／著 小学館 1999年
- 『最新歌舞伎大事典』 柏書房 2012年

君が代のもととなった歌は万葉集に載っているのか。

答

- 『日本大百科全書 6』…歌詞の原型は『古今和歌集』賀の部に「わがきみは」、『和漢朗詠集』には「きみがよは」の初句で、いずれもよみ人知らずで登載されている。
- 『世界大百科辞典 7』…歌詞は《古今和歌集》に由来するが、その初句は＜我が君は＞であり、＜君が代は＞となったのは、《和漢朗詠集》の一写本に始まったといわれる。
- 『国史大辞典 4』…『古今和歌集』の読み人知らずの古歌に始まり、『和漢朗詠集』にとられ、その後筑紫流箏曲や流達の小唄、琵琶歌「蓬莱山」、浄瑠璃、常盤津、さらには門付け唄などにも歌われていた。
- 『日本国語大辞典 第4巻』…「古今一賀・三四三」の「わが君は千世にやちよにさざれ石のいはほとなりてこけのむすまで」〈よみ人しらず〉という長寿祝福の歌が、後世もてはやされ、「隆達節歌謡」「和漢朗詠集」などの流布板本や浄瑠璃などになって、初句が「君が代は」として伝えられた。

その他に、『君が代史料集成 全5巻』、『君が代の歴史』、『日の丸・君が代の成り立ち』の3冊を確認したが、いずれも上記4冊と同様の記述があった。よって、「君が代」は、『古今和歌集』賀歌三四三「わが君は」を初句とする歌がそのルーツとなっており、『和漢朗詠集』になって初句が「君が代は」に変化したという説が定説とみられる。ただし、『古今和歌集』も『和漢朗詠集』も写本のため、どの本を底本にしたかによって和歌の語句には異同がある。

『「君が代」の起源「君が代」の本歌は挽歌だった』では、「君が代」の起源を万葉集に収められた挽歌とする説が提唱されているが、定説とは言い難く、諸説あるうちのひとつと考えられる。

回答プロセス

まず『日本大百科全書』等のレファレンスブック数冊を当たり、「君が代」の概要を確認した。次に、蔵書検索システムで「君が代」をキーワードに検索し、関連のありそうな資料を確認した。また、レファレンス協同データベースで「君が代」を検索し、類似の記事を参照した。

参考資料

- 『日本大百科全書 6』 小学館 1985年
- 『世界大百科事典 7』 平凡社 1988年
- 『国史大辞典 4』 吉川弘文館 1984年
- 『日本国語大辞典 第4巻』 小学館 2001年
- 『君が代史料集成 全5巻』 繁下和雄・佐藤徹夫／編 大空社 1991年
- 『君が代の歴史』 山田孝雄／著 宝文館出版 1979年
- 『日の丸・君が代の成り立ち』 暉峻康隆／著 岩波書店 1991年
- 『「君が代」の起源「君が代」の本歌は挽歌だった』 藤田友治／編著 明石書店 2005年

■オンラインデータベース

レファレンス協同データベース (2018年2月14日アクセス)

http://crd.ndl.go.jp/reference/detail?page=ref_view&id=1000189853

京都のまつりで神輿(みこし)の上にカマキリが乗っていた。
これについて書いてある本がないか。

答

『祇園祭の愉しみ』「第四章山鉦の楽しみ方」の「蠶螂山」(とうろうやま) p82 - p83 に、「御所車の上に、大かまきりのからくり細工を乗せた山です。御所車の車輪が回り、かまきりが顔を傾けたり、洗ったりするこまやかな動きができ、羽をパタパタ動かすと、本物のかまきりのように緑の羽根の下から白いやわらかい羽が見えるなど、精巧な造りが魅力です。」との記述があった。

また、『京都大事典』p235「蠶螂山」には、「「蠶螂(かまきり)の斧を以て隆車(りゅうしゃ)の隧(わだち)を禦(ふせ)がんと欲す」という中国の故事にちなむ山。かまきり山ともいう。南北朝期、四条家の御所車にかまきりを乗せて巡行したのが始めと伝える。(中略)かまきりと御所車の車輪が動くなど、山鉦唯一のからくりがある。」との記述もあった。

回答プロセス

「京都」「神輿」「カマキリ」をキーワードに蔵書検索したが、ヒットしない。そこで、インターネットで「京都」「カマキリ」で検索すると、「蠶螂山」という山車(だし)が京都祇園祭の山鉦であることがわかった。

「神輿」とは『世界大百科事典 27』p321によると「神霊が渡御するときの乗物。(中略)基本的には台、胴、屋根からなり、台に2本の棒を貫く。」とあり、「山車」は同書『17』p263 - p264 に「祭礼に際して、神輿とは別に、人形、花などの風流(装飾)を凝らして、ひいたり担いだりする屋台の総称(中略)京都祇園祭の山鉦は、その代表的なものである。」とあった。

蔵書検索システムで「蠶螂山」をキーワードに検索したがヒットしない。「神輿」や「神社」は除いた「京都」「祭り」「祇園祭」で検索すると、多数資料が見つかったため、ピックアップした2冊から上記の記述を見つけた。

参考資料

『祇園祭の愉しみ』 芳賀直子／著 PHP 研究所 2017年

『京都大事典』 佐和隆研／〔ほか〕編集 淡交社 1984年

『世界大百科事典 17、27』 平凡社 2007年

『写真で見る祇園祭のすべて』

島田崇志／著 西山治朗／〔ほか〕写真 光村推古書院 2006年

『祇園祭のひみつ』 白川書院 2015年

参考サイト

公益財団法人 祇園祭山鉦連合会ホームページ (2018年2月14日アクセス)

<http://www.gionmatsuri.or.jp/yamahoko/toroyama.html>

10 年程前に子どもに読み聞かせをした絵本をもう一度読みたいが、タイトルも書いた人も忘れてしまった。内容は、2匹の怪獣のようなものが、人間の赤ん坊を育てながら旅をするが、途中で赤ん坊が亡くなってしまうというような話であった。外国の絵本だったような気もするが、はっきりと覚えていない。

答

『こぐまと二ひきのまもの』 西川おさむ／さく 童心社 2004 年

回答プロセス

蔵書検索システムで「怪獣」、「二匹」、「赤ん坊」をキーワードにして検索したがヒットしないので、レファレンスブックを参照する。『絵本の住所録』の項目から「怪獣」が出てくる絵本は、該当するものがない。また、『世界の物語・お話絵本登場人物索引』、『日本の物語・お話絵本登場人物索引』も調べたが、こちらは名前、ニックネーム等の固有名詞が不明のため、普通名詞だけでは探せなかった。そこで、「怪獣」の別の言葉を検討した。「かいぶつ」、「ばけもの」、「モンスター」、「トロル」、「おぼけ」、「まもの」が連想されたので、これらを組み合わせて再び蔵書検索システムで検索すると、「にひき」と「まもの」でヒットした数冊から、『こぐまと二ひきのまもの』を探し当てた。

参考資料

『絵本の住所録』 船橋斉／編著 法政出版 1998 年

『日本の物語・お話絵本登場人物索引』 DB ジャパン 2007 年

『日本の物語・お話絵本登場人物索引 1953-1986』 DB ジャパン 2008 年

『世界の物語・お話絵本登場人物索引』 DB ジャパン 2008 年

『世界の物語・お話絵本登場人物索引 1953-1986』 DB ジャパン 2009 年

昔、仙台の八木山にベーブ・ルースが来た時の事について知りたい。

答

『宮城県史 18』には、p272に「ベーブ・ルース来たる」の項があり、昭和9年11月6日に来仙し、2本の大本塁打を右翼と中堅に放ったことなどが記載されている。

『宮城県百科事典』のp1048の「やきゅう 野球」の項には、当時のホームラン王、ニューヨークヤンキースのベーブ・ルースが右翼と中堅に豪快なホームラン2本を放ち、本場の野球を披露したことが記載されている。

『八木山物語』には、p68 - p72に当日の試合の様子や、ベーブ・ルースが観客の歓声に応じる様子などが当時の新聞（河北新報）からの話として記載されている。

『仙鐵野球二十年史』には、p95の「全米（職業團）對明大戦見學」の項に、「ベーブ・ルース・ゲーリック・シモンズ等々、時めくアメリカ職業野球團は讀賣新聞社の招聘で日本にやつて来た。」と記載されている。

『「新」目で見える仙台の歴史』のp155には、浴衣を着たベーブ・ルースの写真も掲載されていた。（河北新報のマイクロフィルムでも同様の写真が記載されている）

河北新報データベースでは、日米野球で八木山を訪れた際の米選抜チームの記念写真が見つかったなどの記事がヒットした。

回答プロセス

宮城・仙台の歴史（県史・市史・事典）、郷土のスポーツ（野球）史、地域誌（八木山）、当時の新聞（データベース）などから調査する。

参考資料

- 『宮城県史 18 医療・体育』 宮城県／著 ぎょうせい 1987年
 - 『宮城県百科事典』 河北新報社／編 1982年
 - 『八木山物語』 石沢友隆／著 河北新報社 2000年
 - 『仙鐵野球二十年史』 嶺村嵐峰／著 1941年
 - 『仙台野球発展史』 前田幸雄 仙台野球発展史刊行会／著 1955年
 - 『「新」目で見える仙台の歴史』 宮城県教科書供給所 1989年
 - 『ベーブ・ルースがやってきた』 石垣政裕／著 劇団仙台小劇場 2005年
- 河北新報マイクロフィルム（昭和9年11月10日）

■オンラインデータベース

「河北新報データベース」

八木山・向山付近の亜炭坑道について調べてほしい。

答

亜炭は石炭よりも炭化度が低く、燃やすと煙とにおいが出る生活燃料の一種である。

仙台はその産地として名高く、青葉山・八木山一帯に亜炭鉱が存在していた。亜炭の鉱脈を見つけるとその鉱脈に向かって坑道を掘り、鉱脈に沿って掘り進むため、坑道は枝分かれし、八木山・向山の地下には縦横無尽に亜炭坑道が走っていた。

亜炭は生活燃料として多くの人々の生活を支えてきたが、エネルギー源が石油に代わり次第に使用されなくなり、昭和44年ごろには亜炭鉱山はほとんど閉山した。

閉山するころに問題となってきたのが鉱害である。坑道における地滑りや陥没の事故が起きるようになり、宮城県と仙台市では坑道の埋め立て事業を進め、昭和61年にはほぼ全ての坑道の閉塞を完了した。

回答プロセス

八木山・向山付近の亜炭坑道ということで、『仙台市史』『宮城県史』を調べる。

『市史せんだい 12』に仙台の燃料事情として亜炭の特集があり、採掘・生産高・亜炭坑分布図や鉱山の所在地などが詳しく載っていた。さらにその中の参考文献『瑞鳳殿 伊達政宗の墓とその遺品』を見ると、八木山層の亜炭鉱害に関する記載があった。

『仙台人気質』や『よりぬき亜炭香報』には、亜炭坑道の記述や記事のほか東日本大震災後のことが載っていた。

参考資料

『仙台市史 特別編9 地域誌』 仙台市 2016年

『市史せんだい 12 仙台の燃料事情』 仙台市博物館／編 2002年

『宮城県史 15 博物』 宮城県／著 ぎょうせい 1987年

『仙臺郷土研究 限定復刻版 1』 仙台郷土研究会 1980年

『仙台人気質』 石澤友隆／著 2013年

『大仙台圏の地盤・地下水』 奥津春生／著 1977年

『瑞鳳殿 伊達政宗の墓とその遺品』 伊東信雄／編 1979年

■オンラインデータベース

「河北新報データベース」

戦時中の父親の行動を知る手がかりとして、配属先の東部第22部隊について調べたい。

答

東部第22部隊入隊者の手記等は見つかり、その存在は確認できた。

『此の一戦』という資料を調べると、東部第22部隊（歩兵第四聯隊補充隊）が、海の特攻に関わる部隊を編成したことが確認できた。その部隊の概要は — 固有名：海上挺進基地第十四大隊、通称名：威三三二八部隊、現地秘匿名：漁撈第百十四大隊、動員：昭和19年9月16日～9月19日、動員地域：宮城県を主とし、福島、新潟、岩手、その他、都道府県若干。海上挺進基地大隊の任務：敵の輸送船団攻撃のため、海上を挺進する陸軍の特攻艇の基地大隊。特攻艇は一名肉薄攻撃艇（肉攻艇）とも言い、これを秘匿するため、通称連絡用舟艇といい、又略してマルレと呼ぶ。編成・装備・任務・任地等も一切が秘密で、当然、家庭との通信・面会も許されていない — 等で、厳重な秘匿下にあったこともわかった。入隊時期が合わず、巻末の隊員名簿にも依頼された氏名は確認できなかった。

回答プロセス

相談者によると、父親は昭和19年の東部第22部隊への応召で仙台へたった後は、昭和20年のルソン島での戦死しか情報がないと言う。この空白を埋めるために東部第22部隊の調査となったが、『歩兵第四聯隊史』等にも部隊名が見つからない。東部第22部隊入隊経歴者の『漆職人の昭和史』や『平和の礎（軍人軍属短期在職者が語りつぐ労苦）』、その他の戦記所収の手記は確認できた。

『国立歴史民俗博物館研究報告147集 戦争体験の記録と語りに関する資料論的研究』から、昭和52年1月12日「河北新報」掲載の『此の一戦』の紹介記事が見つかる。見出しは【海上特攻隊 念願の部隊史発刊】とあった。

参考資料

『此の一戦 海上挺進基地第14大隊・海上挺進第14戦隊部隊史』

古川金三・藤田義郎／著 企業公論社出版局 1976年

『歩兵第四聯隊史』 重陽会 1974年

『漆職人の昭和史』 森伊佐雄／著 新潮社 1992年

『平和の礎（軍人軍属短期在職者が語りつぐ労苦）』 3・8・11巻(1993、1998、2001年)

平和祈念事業特別基金

『国立歴史民俗博物館研究報告147集 戦争体験の記録と語りに関する資料論的研究』

人間文化研究機構国立歴史民俗博物館 2008年

仙台城下が築かれたころの地名について書かれたものが見たい。また、「千代」から「仙台」に地名が変わった理由も知りたい。

答

慶長6年(1601年)の仙台城の普請とともに建設された城下町は、いくどか拡張されているが、『宮城県の地名』の「仙台城下」の項には、仙台城下の発展の経緯と、仙台城下創設期の城下町の地名についての記載があった。この他にも、『仙台城下の町名由来と町割』、『仙台市史 通史編3 近世1』にも同様の記述が見つかった。

また、「仙台」の地名の由来については諸説ある。川に囲まれた山の手を「川内」と称したことから、音読で「せんだい」と呼ばれ、転じて「千代」の文字が生まれたとする説、アイヌ語の「sep-nay 広い川」が語源になっているとする説もあるが、『仙台事物起原考』の「一四八 仙台市地名の由来」の項に詳細な記述のある以下の説が最もよく知られている。

もともこの地に祭られていた千体仏にちなんで「千体」の字が当てられていたが、いつのころからか「千体」の雅名である「千代」の文字が使用されるようになった。「千代」の文字は、仙台城を築城した伊達政宗により、慶長5年12月の築城縄張始の折に「仙臺」と改称された。この改称の由来は、中国の唐の詩人韓翃(かんゆう)の七言律詩の「仙臺初見五城樓」という起句から採ったものと考えられている。

回答プロセス

蔵書検索システムで、「仙台城下」「地名」をキーワードに検索。併せて、郷土資料の書架から、宮城県や仙台の地名に関する資料を中心に、仙台の歴史や仙台城についての資料など、記述のありそうな資料を探し内容を確認した。

参考資料

- 『宮城県の地名』(日本歴史地名体系4) 平凡社 1987年
- 『仙台市史 通史編3 近世1』 仙台市 2001年
- 『仙台城下の町名由来と町割』 古田義弘/著 2013年
- 『仙台市史1 本篇1』(復刻版) 仙台市 萬葉堂書店 1974年
- 『仙台城下の地名』 太宰幸子/著 大崎八幡宮 2008年
- 『仙台事物起原考』(再編復刻版) 菊地勝之助/著 ヨークベニマル 1995年
- 『仙台地名考』 菊地勝之助/著 宝文堂 1978年
- 『仙台市史続編 別巻 仙台の歴史』 仙台市 1970年

仙台市青葉区錦町にある「ライト式近代建築」の建物について知りたい。河北新報に記事が載っていて興味を持った。

答

建築家フランク・ロイド・ライトの影響を受けた建築を「ライト式建築」と呼ぶ。

錦町にあるライト式近代建築とは、東北帝国大学教授で、宗教史学者として知られた故石原謙博士の住宅である。博士が東京女子大学長に招かれる際に、東北大学教授の的場幸雄氏に譲られたため、「石原邸」、「旧石原邸」、「的場邸」などと呼ばれている。

ライトが帝国ホテル建設時にチーフアシスタントとして参加したライトの高弟、遠藤新が設計した。遠藤は仙台で他にも数棟の住宅を設計しているが、現存するのはこの住宅だけである。

竣工は昭和2年。1階約106㎡、2階63㎡のモルタル2階建である。戦後米軍に接収され、若干の改造を受けてはいるが、旧状を良く保っている。当時の住宅の典型である接客中心、家父長中心の生活像が排され、家族中心の生活像が示されている点など、この石原邸は日本の条件のなかで遠藤新の力が存分に発揮された住宅と考えられている。

回答プロセス

河北新報データベースで「錦町」「近代建築」をキーワードにして検索したところ、該当記事（2016年7月14日付朝刊）が見つかった。記事より、20世紀を代表する建築家フランク・ロイド・ライトの弟子である遠藤新が、石原謙・東北帝大教授の依頼によって建てたことが判明。

蔵書検索システムで、「遠藤新」「宮城県」「近代建築」をキーワードにして検索したところ、『宮城の研究7 民俗，方言，建築史篇』p444に家屋の平面図や特徴など詳しい記述があることを確認した。

参考資料

『宮城の研究7 民俗，方言，建築史篇』 渡辺信夫／編 清文堂 1983年
河北新報 朝刊（2016年7月14日付）「仙台の近代建築 価値再発見」

■オンラインデータベース

「河北新報データベース」

登米市出身で、カナダにゆかりの「おいじん」(オイカワジンゴロウ?) がモデルとなっている本を探している

答

「おいじん」：及川甚三郎（おいかわじんざぶろう）は、安政2年（1855）年、鱒淵村（現在の登米市）に生まれた。様々な事業で成功を収め、42歳でカナダに渡った後、フレージャー川の中のドン島とライオン島を開拓し、塩鮭や鮭の卵の生産加工の事業を始め、やがて日本に輸出するまでとなる。故郷の人々の生活の苦しさを知り、多くの人々をカナダに移住させる道を開いた。

1973年にテレビの歴史番組で取り上げられ、1979年に出版された新田次郎の『密航船水安丸』（現在は絶版）で広くその偉業が紹介された。

2006年、カナダで行われた水安丸航海100周年記念行事に80人以上の登米市民が参加。旧東和町と姉妹都市関係にあったバーノン市と登米市の姉妹都市協定も、あらためて結ばれた。

回答プロセス

「オイカワジンゴロウ」と検索しても蔵書検索システム、インターネットともヒットせず。「登米市」と「カナダ」をキーワードにインターネットで検索すると、「及川甚三郎（オイカワジンザブロウ）」であることがわかった。蔵書検索システムで再検索すると参考資料が見つかり、その中に「及川甚三郎」をモデルにした小説についても載っていた。また、河北新報データベースで、「及川甚三郎」について検索してみると、様々な情報を得ることができた。

参考資料

- 『東和町史』 佐々久／監修 宮城県東和町 1987年
- 『みやぎの先人集 未来への架け橋』 宮城県教育委員会 2013年
- 『密航船水安丸』 新田次郎／著 講談社 1979年
- 『失われた風景』 山形孝夫／著 未来社 1996年

■オンラインデータベース

「河北新報データベース」

孫（小学生）と一緒に、太平洋戦争中の仙台の様子を学べるような本はあるか。

答

『まんが仙台空襲』、『おばあさんから孫たちへ』、『つつみのおひなっこ 仙台空襲ものがたり』は、小学生でも読めるよう衣食住に関する当時の状況や、戦争用語を分かりやすく掲載している。

また、当時の様子を知ることができる資料として、『仙台空襲』、『仙台はフェニックス』、『戦争と庶民のくらし4』、『ガイドブック 仙台の戦争遺跡 2008』を紹介した。

回答プロセス

小学生にもわかりやすいよう児童書からも検索してみた。最も被害が大きかった昭和20年7月10日の仙台大空襲を中心に、体験手記や写真の資料を集めた。また実際に資料や記録の展示を見る事によって身近に感じることでできる施設も紹介した。

参考資料

『まんが仙台空襲』 早坂照明／まんが 仙台市戦災復興記念館 1990年

『おばあさんから孫たちへ みやぎの戦争』

退職女性教職員の会宮城白萩の会中央支部／編 2005年

『つつみのおひなっこ 仙台空襲ものがたり』

のもとかずこ／作 たかくらかつこ／作 仙台文化出版社 1980年

『仙台空襲』 仙台「市民の手でつくる戦災の記録」の会／編 宝文堂 1973年

『仙台はフェニックス 戦中戦後の証言と聞書集』

仙台「市民の手でつくる戦災の記録」の会／編 宝文堂 1995年

『仙台市歴史民俗資料館資料集 第1冊～第6冊』

仙台市歴史民俗資料館／編 仙台市 2003～2008年

『戦争と庶民のくらし4 企画展図録』 仙台市歴史民俗資料館 2014年

『ガイドブック仙台の戦争遺跡 2008』

仙台市歴史民俗資料館／編 仙台市教育委員会 2008年

参考サイト

仙台市歴史民俗資料館ホームページ（2018年2月14日アクセス）

<http://www.sendai-c.ed.jp/~bunkazai/~rekimin/index.html>

仙台市戦災復興記念館ホームページ（2018年2月14日アクセス）

<https://www.hm-sendai.jp/sisetu/sensai/index.html>

仙台市で高齢者が外出時に利用する交通手段を調査した本はないか。

答

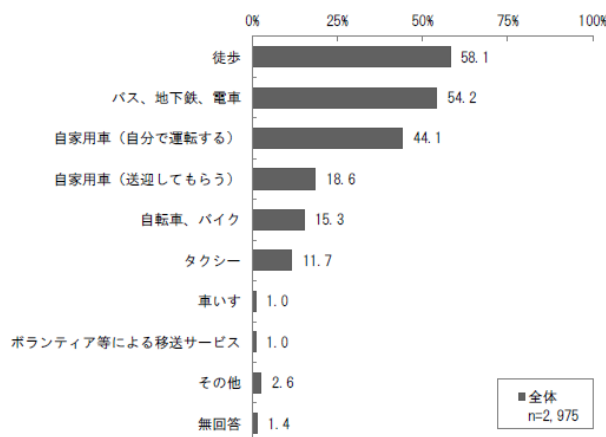
仙台市のホームページに公開されている『高齢者保健福祉計画策定のための実態調査「高齢者一般調査」報告書』の中に、「第2章 分析結果の概要-7 外出について (2) 外出の際の手段」という項目があった。この調査は仙台市健康福祉局保険高齢部高齢企画課が行ったものであり、平成28年10月に仙台市介護保険被保険者資格を有している高齢者（約237,000人）から無作為に抽出した5,000人を対象にして行われたものである。（下図参照）

また、過去のデータではあるが、『仙台市における生活交通のあり方と行政の関わりあいに関する基礎調査（平成16年度中間報告）2004 SURF 研究報告』のp3に、「高齢者（65歳以上）の代表交通手段（市内）」のデータの記載があった。また、同資料の最終報告書である『仙台市における生活交通のあり方と行政の関わりあいに関する基礎調査 2005 SURF 研究報告』には、太白区青山地区の住民アンケートの調査結果として、p27に年齢別移動手段の選択率の表と、p96に60歳以上の外出時の移動手段のグラフが掲載されていた。

(2) 外出の際の手段【複数回答】

問15-(1) 【問15で「1」～「6」（外出する）に回答した方】
普段どのような方法で外出しますか。（主なもの3つまで○）

○外出の際の交通手段は、「徒歩」（58.1%）、「バス、地下鉄、電車」（54.2%）、「自家用車（自分で運転する）」（44.1%）の順となりました。



『高齢者保健福祉計画策定のための実態調査「高齢者一般調査」報告書（平成29年3月）』より

回答プロセス

本でという希望があったので、『高齢社会白書』、『交通安全白書』、『仙台市統計書』、『宮城県統計年鑑』を調べたが、該当項目はなかった。

「国勢調査」での「通勤・通学者の交通手段」の調査や「仙台市都市圏パーソントリップ調査」は高齢者に限ったものではない。

インターネットで調べると仙台市のホームページで上記の報告書を見つけた。

参考サイト

仙台市ホームページ「高齢者保健福祉計画策定のための実態調査「高齢者一般調査」報告書（平成 29 年 3 月）」（2018 年 2 月 14 日アクセス）

<http://www.city.sendai.jp/korekikaku-kikaku/kurashi/kenkotofukushi/korenokata/fukushi/hokokusho/hokokusho.html>

『仙台市における生活交通のあり方と行政の関りあいに関する基礎調査（平成 16 年度中間報告）2004 SURF 研究報告』仙台都市総合研究機構 2005 年

『仙台市における生活交通のあり方と行政の関りあいに関する基礎調査 2005 SURF 研究報告』仙台都市総合研究機構 2006 年



「熊野堂の昔話」の名取の老女が読みたい。
河北新報に能が上演される記事が載ったのでそのことも知り
たい。

答

「熊野堂の昔話」については、『郷土なとり第5号』に、「熊野堂の昔ばなし－名取老女物語」があった。

名取の老女とは、平安時代に宮城県名取市高館にある熊野神社を紀州から分霊したといわれている伝説上の人物で、その分霊についての物語が室町時代に「護法（ごおう）」という能になっている。この能は明治時代に廃曲になったが、1993年に台本を大幅に改編し復活上演されている。この作品が2016年に東日本大震災の鎮魂の祈りを込めて、筋立てを変更し「名取ノ老女」として国立能楽堂（東京都）で、2017年には名取市文化会館（宮城県名取市）で復曲上演された。

回答プロセス

蔵書検索システムで「熊野堂の昔話」をキーワードに検索し、回答した資料を見つけた。併せて郷土資料や郷土事典などから「名取の老女」に関わる資料を探した。

参考資料

- 『郷土なとり』第5号 名取市郷土史研究会 1993年
 - 『封内風土記』名取市の旧邑村 現代語意識付 川村善次郎／編 1999年
 - 『名取市史』名取市 1977年
 - 『知られざる中世の仙台地方』飯沼勇義／著 宝文堂 1986年
 - 『熊野堂今昔風土記』川村善次郎／編 2001年
 - 『能・狂言事典』西野春雄／編 平凡社 1987年
 - 『宮城県百科事典』河北新報社／編 1982年
 - 『図説 宮城県の歴史』渡辺信夫／責任編集 河出書房新社 1988年
 - 『宮城県史 21 民俗』宮城県／著 ぎょうせい 1987年
- 河北新報 夕刊（2016年3月14日付）

「名取市ゆかりの能『名取の老女』－震災5年機に復曲上演」

参考サイト

国立能楽堂ホームページ（2018年2月14日アクセス）

<http://www.ntj.jac.go.jp/nou.html>

明治天皇が仙台（岩切～松森）に来た時の巡幸のルートを知りたい。

答

明治天皇は明治9年と14年の2回、仙台に巡幸している。

岩切を通過したのは、一度目の明治9年6月2日～7月21日の巡幸で、記録によると6月29日である。これらの情報は『明治天皇聖蹟写真集』、『明治天皇とその時代』、『明治天皇聖蹟誌』等に詳細な記録が残っているが、<松森>の表記は、どの資料でも確認できなかった。

回答プロセス

郷土資料の範囲で、明治天皇に関わる資料を蔵書検索システムで検索したところ、『明治天皇聖蹟写真集』p8に「宮城縣御巡幸略図」を見つけた。明治9、14年のルートが区別して一枚の図に記されていて、これによると、地名としての<松森>の記載はないものの、岩切の通過は明治9年のことだとわかった。

『明治天皇とその時代』には巡幸全行程の特集記事があり、奥羽巡幸・明治9年6月2日～7月21日の項、p189記載の地名を拾うと、<塩竈神社>→<多賀城址>→<市川>→<今市（岩切町）>→<仙台>→<七北田>→<富谷>→<吉岡>となる。

『明治天皇聖蹟誌』p177の記載も同様に、<松森>はなかった。

ちなみに、『仙台市史 通史編6 近代1』p482「現在の仙台市域と明治時代の市町村」によると、当時の岩切と松森は、ほぼ東西に隣り合っている。

参考資料

『明治天皇聖蹟誌』 宮城縣 1925年

『仙台市史 通史編6 近代1』 仙台市 2008年

『明治天皇聖蹟写真集』 宮城県日本国民会議 1969年

『明治天皇とその時代』 正論12月臨時増刊号 産経新聞社 2002年

渡辺綱（わたなべのつな）の昔話が載っている本を探している。宮城県のものを読みたい。

答

言い伝えであるため、資料によって若干異なるところはあるが、おおむね次のような話であった。

源頼光の四天王の一人渡辺綱が、京都の羅生門で鬼の片腕を斬り落とした。逃げた鬼を探して綱は各地を巡り、奥州の姥が懐の里に来た時、綱の伯母に化けた鬼に腕を見せてくれとせがまれた。綱がやむなく見せたところ、さっつつかんで逃げてしまう。その時、川を渡るうとして足を滑らせ、石に手をついた跡が「姥の手掛石」として今も残るという。また、山を越す時に手をかけた手掛石も、近くの山にあるという。

※姥が懐（うばがふところ）…宮城県柴田郡村田町大字小泉にある地名。

回答プロセス

まず、『世界大百科事典 30』で「わたなべのつな」の人物を調べたが、これには鬼退治の記述はあったが、宮城県に関するものはなかった。次に、「ワタナベノツナ」をキーワードに蔵書検索システムで検索すると、『仙臺郷土研究 限定復刻版 7』がヒットし、p245に「渡邊綱の子孫の村」の項を見つけた。その村が柴田郡村田町とわかったので、『柴田郡誌』と『村田町史』を調べた。すると、『村田町史』p141に「姥が懐に伝わる話」として、詳しい記述を発見した。

他に、郷土民話の書架から『日本昔話通観 第4巻 宮城』の「鬼の片腕」、『東北の鬼』の「姥の手掛石」の項を、インターネットでは、「村田町.com－むらたまちドットコム」のサイトに「姥ケ懐と渡辺綱」の記事を見つけ、併せて紹介した。

参考資料

『世界大百科事典 30』 平凡社 1988年

『仙臺郷土研究 限定復刻版 7』 仙臺郷土研究会 1987年

『柴田郡誌』 柴田郡教育会／編 名著出版 1972年

『村田町史』 宮城県村田町 1977年

『日本昔話通観 第4巻 宮城』 稲田浩二・小沢俊夫／責任編集 1982年

『東北の鬼』 岩手出版 1989年

参考サイト

村田町.com－むらたまちドットコム (2018年2月14日アクセス)

<http://town-murata.com/2010/05/post-24.html>

広瀬川や七北田川などがどこから始まって海へと続いていくのか、子どもに説明したいので、図や絵で一目で分かるようなものはありますか？

答

広瀬川…山形県境の関山峠周辺に水源があり、作並を通過して新川、大倉川などと合流して愛子盆地に入り、仙台市街を蛇行して日辺の辺りで名取川に合流して閑上（ゆりあげ）に続いている。

七北田川…泉ヶ岳周辺に水源があり、根白石、七北田、岩切、多賀城市新田、中野の地区を通過して蒲生で太平洋に流れている。

『仙台市史 特別編1 自然』p72 - p73に見開きで川が海へ続く図が描かれている。

回答プロセス

児童書の資料では該当するものが見つからず、一般書の郷土資料より探した。

『仙台市史』の他、1枚ものの地図『仙台市区分地図』の泉区版では七北田川の、青葉区版・太白区版では広瀬川の、市街地での流れをより詳しく見ることができる。

参考資料

『仙台市史 特別編1 自然』 仙台市 1994年

『宮城県百科事典』 河北新報社／編集 1982年

『仙台市区分地図』 マップテクノ仙台 2016年

仙台市政 88 周年の記念に選ばれた樹木 88 本を知りたい。

答

仙台は古くから“杜の都”と呼ばれ、かつては町全体が樹木に覆われ、多くの名木・古木等を数えることができたという。しかし、近代化が進み、仙台の古き良き風景も大きく様変わりしていったことから、杜の都の伝統を守り、将来に伝承しようという動きが高まり市政 88 周年の記念事業の一環として「仙台市制施行八十八周年記念 名木・古木八十八選」という名称のもと樹木が選定された。

『仙台あこのころこのころ八十八年』p179 より

- | | | |
|------------------|-------------------|---------------|
| 1.国見の赤松 | 30.東照宮のいいぎり | 60.善応寺のきんもくせい |
| 2.国見の琉球つつじ | 31.仙台営林署のとちのき | 61.善応寺のいちい |
| 3.子平町の藤 | 32.小松島の赤松 | 62.善応寺のしらかし |
| 4.充国寺の黒松 | 33.瞑想の松 | 63.外内屋敷の杉 |
| 5.柏木の臥竜梅 | 34.宮城県警察学校の黒松 | 64.外内屋敷のひのき |
| 6.萬勝寺の赤松 | 35.旭ヶ丘の一本松 | 65.岩切小学校の三葉の松 |
| 7.江巖寺の黒松 | 36.孝勝寺の黒松 | 66.東光寺の本の松山の松 |
| 8.江巖寺のさるすべり | 37.愚鈍院のこつぶがや | 67.西光寺のだんご杉 |
| 9.大崎八幡神社のいぬしで | 38.成覚寺の娑羅双樹 | 68.西光寺のさんごじゅ |
| 10.大崎八幡神社のこうやまき | 39.林香院の天総の松 | 69.西光寺のあらかし |
| 11.大崎八幡神社の赤松 | 40.榴ヶ岡公園のしだれざくら | 70.西光寺のぎんもくせい |
| 12.大学病院のひよんのき | 41.榴ヶ岡公園のさいかち | 71.西光寺のいたやかえで |
| 13.亀岡八幡神社のはりもみ | 42.榴ヶ岡公園の黒松 | 72.照徳寺のいちよう |
| 14.亀岡八幡神社のしだれざくら | 43.榴岡のしだれやなぎ | 73.荒井の巨桑 |
| 15.二の丸跡のかえで | 44.梅林のしだれざくら | 74.七郷の一本松 |
| 16.天主台のもみ | 45.梅林の唐渡りの梅 | 75.井土浜の黒松 |
| 17.支倉町のさいかち | 46.榴岡天満宮の梅 | 76.光西寺の黒松 |
| 18.広瀬町のえのき | 47.榴岡天満宮のしだれざくら | 77.蓮光寺の舞鶴の松 |
| 19.広瀬町の大杉 | 48.榴岡天満宮のしらかし | 78.小平のさるすべり |
| 20.西公園の臥竜梅 | 49.仙台郵便貯金会館の天満けやき | 79.宝林寺のきゃらぼく |
| 21.西公園のいちよう | 50.薬師堂の大杉 | 80.宝林寺のちゃぼひば |
| 22.木町通りのいとひば | 51.稲舟神社のいろはもみじ | 81.宝林寺のさるすべり |
| 23.木町通小学校のいちよう | 52.朝鮮五葉松 | 82.柳生のきゃらぼく |
| 24.東北大学のしでざくら | 53.乳いちよう | 83.柳生のかや |
| 25.東北大学のあけぼの杉 | 54.宮城野八幡神社のけやき | 84.金洗沢の赤松 |
| 26.東北大学の黒松 | 55.北宮城野の黒松 | 85.富沢のけやき |
| 27.二日町の御柳 | 56.大山祇神社の大いちよう | 86.富田のけやき |
| 28.東二番丁小学校のくすのき | 57.志賀神社のいちい | 87.金剛寺の地藏ざくら |
| 29.仙岳院の笠松 | 58.河原町のかや | 88.坪沼のきゃらぼく |
| | 59.保春院前丁の御柳 | |

回答プロセス

市制 88 周年の記念ということから記念事業関連の資料、及び郷土の自然に関する資料から調べ始める。

『せんだい八十八年』より市政 88 周年が昭和 52 年（1977）と確認できたが樹木 88 本の記述はなし。

次に記念事業の正式名称をキーワードのひとつにするため『仙台市史 特別編 1 自然』の博物学関係年表から「仙台市制施行八十八周年記念 名木・古木八十八選」という名称を見つける。

蔵書検索システムにより「名木・古木」の郷土資料をキーワードに検索し、検索結果の中から『杜の都の名木・古木』を確認してみたが記念事業の紹介はあるが樹木 88 本の記載はなかった。

しかし、参考文献の『仙台あのあるころこのころ八十八年』にあたったところ、88 本全ての名称、樹種、所在地等の記述にたどりつくことができた。

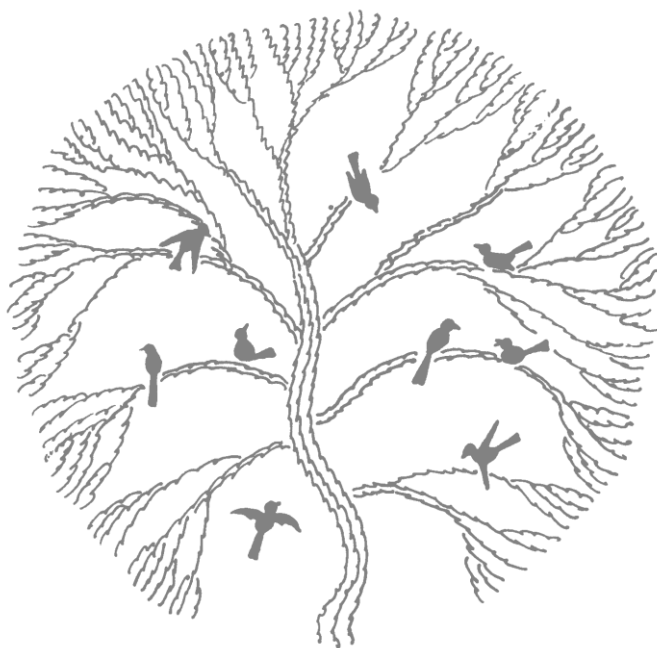
参考資料

『せんだい八十八年』 仙台市 1977 年

『仙台市史 特別編 1 自然 資料 1』 付年表 1 博物学関係年表 仙台市 1994 年

『杜の都名木・古木 仙台市保存樹木』仙台市建設局緑地部／編著 1979 年

『仙台あのあるころこのころ八十八年』 三原良吉／監修 宝文堂 1978 年



過去の事例集（2014年 Vol.3）目 次

アメリカのオバマ大統領の両親について知りたい。	1
なぜ日本の学校は4月入学なのか。	2
韓国の現在の経済力を知りたい。	3
ウイスキー製造元のニッカという名称がどこからきたのか知りたい。	4
【巳】と【已】と【己】の字について	5
昭和30年代の肺結核の「三者併用の薬」とは何か。	6
「八色姓」にあるという、装束の色と身分や位との関係について	7
いろいろなストレスをランキングした表を見たい。	8
昭和12年に世界一周を成し遂げた「神風号」について	9
できるだけ簡単に扱える非常食にはどんなものがあるのか。	10
お墓の納骨スペース「カロート」とは何語か？	11
「ばんきり」という言葉の意味が知りたい。	12
「森のキツツキ」など手遊びの歌詞が載っている本は？	13
浮世絵で、東京スカイツリーのようなものが描かれているものは？	14
沙羅双樹の木を写真や絵で確認したい。	15
天候と病気の関係について教えられるような本を紹介してほしい。	16
昭和40年頃の平均的な退職金の額は？	17
玄米に含まれる「フィチン酸」について調べたい。	18
常長が外国に行き白石和紙で鼻をかんだ…というエピソードは？	19
カタツムリの飼い方について	20
ペンギンの卵を原寸大の写真で見たい。	21
ノートのまとめ方がわかる本は？	22
秋の七草の種類やいわれなどを知りたい。	23
ビスケットとクッキーの違いはあるの？	24
仙台の冬を彩る「光のページェント」はどんな意味があるのか。	25
仙山線の歴史について知りたい。	26
仙台藩の寺格とはどういうものなのか。	27
佐々木喜善が宿泊した「芭蕉館」はどこにあるか。	28
政宗が砂金村や秋保村で川獺をしていたという記述を探している。	29
郡山合戦の際の郡山城とは？	30
今の若林区大和町は、昔どういう所だったのか？	31
太白区の三神峯公園にある石碑について知りたい。	32
民謡『新さんさ時雨』の譜面が載っている資料を探している。	33
仙台駅東口にあった島崎藤村の文学碑には何と書いてあったのか。	34
仙台市原町にある清水沼について知りたい。	35

過去の事例集 (2016年 Vol.4) 目 次

「仙台時間」の定義は？	1
仙台糰 (ほしいい) について	2
少林 (わかばやし) 神社について	3
世界遺産の富岡製糸場と白石の片倉製糸との関係は？	4
仙台藩の馬政史について	5
東北の空襲による被害は？	6
七北田刑場で処刑された人数は？	7
戦時中、仙台の動物園での猛獣の処分について	8
ナマズに似た魚で「ギグバチ」「ギグバド」と呼ばれる魚は？	9
仙台市内で災害と関係のある地名は？	10
若林周辺の「イグネ」について	11
宮城野通りにあるプレートの和歌について	12
一高女 (一女高?) の移転の経緯は？	13
「つつじがおか」の地名について	14
太白区太子堂にあったこけし塔について	15
愛子周辺で化石がとれる場所は？	16
七夕の短冊はなぜ5色？	17
伊達政宗が森林保護のために発令した制札とは？	18
水の森の叢塚について知りたい	19
公文書にある鎖と節と分とは？	20
古生物学者になるための参考本は？	21
第二次世界大戦中、マレー戦で自転車部隊がたどった道は？	22
スプーンにうつる自分の顔がさかさまなのはどうして？	23
石川啄木の「ふるさとの山に向かいて…」の山は岩手山？	24
トイレトレーニングの参考になる本は？	25
「つなぐ」の正しい漢字は？	26
「火おこし」をするにあたって	27
平安時代の甘味調味料とは？	28
植物標本の作り方のコツは？	29
「光琳笹」とはどんな笹か	30
老人ホームで作って使える手芸の本は？	31
ロシア民謡の「ぐみの木」は日本のぐみの木と違うのか？	32
妹が生まれるので、きょうだいが出てくる絵本を読んであげたい	33
昔読んだアンデルセンの「ナマリの兵隊」は本当は「スズの兵隊」？	34

本の道案内

～図書館レファレンス事例より～



平成 30 年 3 月発行

編集 仙台市図書館

発行 仙台市民図書館

〒980-0821 宮城県仙台市青葉区春日町 2-1

せんだいメディアテーク内

TEL 022-261-1585 (代)

この事例集は仙台市図書館ホームページにも掲載しています。

<https://lib-www.smt.city.sendai.jp/>